



2022年8月4日

各 位

会 社 名 株式会社ジェイテックコーポレーション
代表者名 代表取締役社長 津村 尚史
(コード番号：3446 東証プライム)
問合せ先 取締役管理部長 平井 靖人
(TEL. 072-655-2785)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2022年8月4日開催の取締役会において、最近の業績動向等を踏まえ、2021年8月12日に公表しました2022年6月期の通期業績予想を修正することにしましたので、お知らせいたします。

記

1. 2022年6月期通期連結業績予想値の修正 (2021年7月1日～2022年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	1,700	194	232	150	25.76
今回修正予想 (B)	1,150	△71	△26	△32	△5.48
増減額 (B - A)	△549	△265	△259	△182	
増減率 (%)	△32.3	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 ※ (2021年6月期)					

※連結子会社のみなし取得日を2021年6月期連結会計年度末日としており貸借対照表のみを連結しているため、2021年6月期の連結業績については記載をしております。

2. 2022年6月期通期個別業績予想値の修正 (2021年7月1日～2022年6月30日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	1,415	205	141	24.25
今回修正予想 (B)	1,042	33	21	3.60
増減額 (B - A)	△373	△172	△120	
増減率 (%)	△26.4	△83.6	△85.1	
(ご参考) 前期実績 ※ (2021年6月期)	820	△239	△170	△29.16

3. 2022年6月期通期連結セグメント別売上高予想値の修正（2021年7月1日～2022年6月30日）

	オプティカル 事業	ライフサイエンス・ 機器開発事業	その他事業 (電子科学)	合計
	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想 (A)	1,107	308	285	1,700
今回修正予想 (B)	779	262	108	1,150
増減額 (B - A)	△327	△45	△176	△549
増減率 (%)	△29.6	△14.9	△61.9	△32.3
(ご参考) 前期実績 ※ (2021年6月期)	519	301		820

※連結子会社のみなし取得日を2021年6月期連結会計年度末日としており貸借対照表のみを連結しているため、2021年6月期の電子科学の売上高については記載をしております。

4. 修正の理由

当社グループは、当社の2つのセグメント及び子会社の電子科学株式会社で構成しております。

当社の「オプティカル事業」ではX線ナノ集光ミラーの受注生産を行い、「ライフサイエンス・機器開発事業」では主力である機器開発製品において主に受注生産を行っております。また、電子科学株式会社については「その他事業」にて計上しております。

今回、それぞれのセグメントにおいて売上高が前回発表時の予想値より下回る見込みであるため、業績予想の修正を行うこととなりました。

販売費及び一般管理費項目・営業外損益項目・特別損益項目につきましては、大半の項目が固定費であり前回発表時点からの大きな乖離は無いため、業績予想の修正要因となった売上高について、セグメント別に記載いたします。

<オプティカル事業>

X線ナノ集光ミラーの主な販売先である国内外の放射光施設やX線自由電子レーザー施設においては、コロナ禍の影響で一部の運用に制限があるものの、概ね通常稼働状態に戻ってきております。国内の次世代放射光施設 Nano Terasu (旧称 SLiT-J) をはじめ、中国及び欧米の放射光施設のバージョンアップや新設計画により、多くの受注を獲得することができました。

しかしながら、4月からの上海の長期ロックダウンの影響により中国全土にて混乱が生じ、輸入手続きが事実上ストップとなりその後も輸入制限がかかった影響に伴い、中国向けの多くの製品において納入に至らない結果となりました。また、アメリカ向けにおいては、急な仕様変更依頼に対応したため、納品にまで至らない案件がありました。これらについては翌期の売上としてずれる見込みであります。

<ライフサイエンス・機器開発事業>

水晶振動子ウエハ加工システムにおいて、国内のパイロットユーザーに続いて海外の水晶振動子メーカーへの拡販を進めておりましたが、コロナ禍の影響により導入計画が遅れ成約に至らず売上を計上することができませんでした。

<その他事業 (電子科学)>

電子科学の売上構成は、装置販売 (TDS: 昇温脱離分析装置)、装置のメンテナンス業務、受託分析業

務の3つに分かれますが、装置販売において売上が予定を大きく下回りました。装置販売のユーザーは主に韓国・台湾の半導体メモリー、液晶ディスプレイ、有機EL等のメーカーですが、コロナ禍の影響により入国が制限されたため、設置・導入作業を行えず売上を計上することができませんでした。これらについては翌期の売上としてずれる見込みであります。

これら上記各セグメントの売上計画未達の影響を精査し、減損処理の検討等を協議していたため、本日の業績予想の修正発表となりました。

※上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上